



新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校期間についての アンケート調査集計レポート

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日常は一変してしまいました。ついに、緊急事態宣言の対象地域も全国区となり、休校期間の延長もやむをえない事態となりました。突然、子どもが毎日家にいる生活を余儀なくされた現実に、大きな不安を抱えて日々をお過ごしのご家庭も多いようです。家族の3食の食事づくりももちろん大変ですが、学校という子どもが日常生活の大半を過ごしている場が突然なくなる…、この現状に対する心的な不安は計り知れないほどの大きさです。

子どもを学びから離してしまっってはいけない。このような思いから、多くのオンラインコンテンツが無償提供され、一部の学校では、オンライン授業の展開もすでにスタートしています。子どもの所属意識を高め、やる気を維持するために、できるだけ子どもと双方向につながる工夫もなされ、先生方によるスピーディな対応には、頭が下がる思いです。

しかし、在宅勤務をしながら子どもの面倒をみることはできない、オンライン授業には親の関与が不可欠、子どものモチベーションが保たずオンライン授業にすら取り組めない等、現在の家庭における子どもとの日常には、語りつくせないほど多くの課題や葛藤があることも事実です。【仕事も自宅で、学習も自宅で】、とせざるを得ない今、自宅(家庭)を管理する保護者の皆様には、物理的にも精神的にも大きなご負担があり、支援の必要性を感じます。

そこで、家庭教育サポートを10年にわたり展開してきた株式会社サイタコーディネーションでは、運営団体の一つであるマザーカレッジ(子育てコーチングスクール)のメールマガジンの読者様を対象として、【臨時休校期間における子育て】に関するアンケート調査を行いました。保護者の皆様のリアルな声には、今後急速に展開されるだろう教育サポートやメンタルサポートにおいて、参考にいただける要素があるかもしれません。

外側からは見えにくい家庭の中にある現実を、今後の皆様のお取り組みに生かしていただければ幸いです。

私たちの生活を支えるために、命がけで頑張ってくださっている皆様への心からの感謝とともに、多様な領域の人々がつながりあい、少しでも子どもたちが安全に、そして笑顔で過ごせる日常をサポートすることができればと考えております。

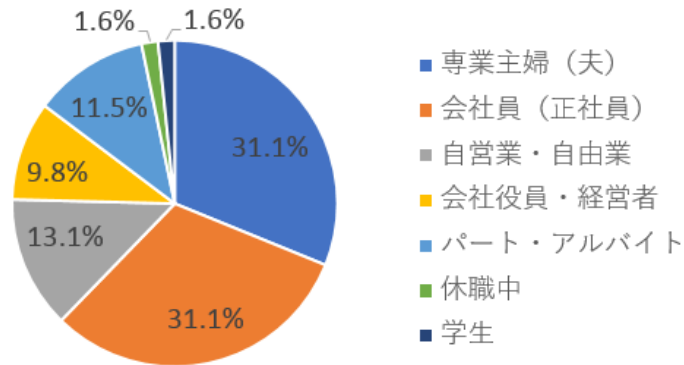
[調査概要]

- ・調査対象: 未就学児から高校生以上のお子さまがいる保護者、子どもとの関わりのある大人 61名
 - ・調査期間: 2020年4月9日(木)から4月12日(日)
 - ・調査方法: インターネット調査
-

「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校期間についてのアンケート調査」集計レポート

1. 調査対象

未就学児から高校生以上のお子さまがいる保護者、子どもとの関わりのある大人 61 名 (回答数 61)



2. いま、子育てにおいて何に 1 番困難を感じていますか？ (回答数 57)

分類	勉強のこと	生活習慣のこと	メンタル面	親子・兄弟関係	運動不足	その他
事例(回答)数	22	19	3	2	2	9

◆勉強のこと (以下の囲みは自由記述回答抜粋)

- ・在宅ワークで仕事があるため構ってあげられない
- ・家庭学習をどれほど、どのようにやらせればいいのかわからない
- ・自宅学習がままならない。TV、ゲームの頻度が高い / ・本を読まない
- ・在宅勤務不可のため待機以外、目が行き届かず学習フォローが不十分
- ・計画的に勉強をさせることが難しい、家事に追われてなかなか勉強を見てあげられない

◆生活習慣のこと

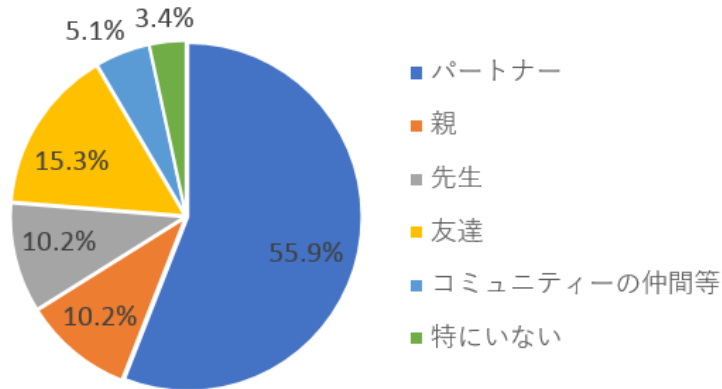
- ・子どもが SNS 漬け
- ・生活にメリハリがなく、だらだらと過ごしてしまう
- ・生活のリズムが乱れ、学習意欲の低下にもつながっている
- ・時間の管理がうまくできない / ・自分で考えない、何でもやらせてもらうとする

◆ストレス・メンタル面

- ・集団での友達とのコミュニケーションがないことに対するストレス
- ・マンションで静かに過ごすこと
- ・毎日 3 食ご飯を作ったり子どもの相手をする時間が増え、妻のストレスが溜まっている

まとめ 急な休業期間に伴い多くの保護者が不安に感じているのは、子どもの学習に関すること、生活習慣の乱れであることが示された。

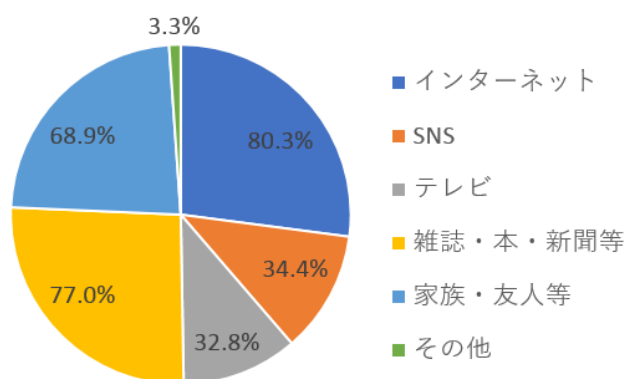
3. 現状の不安を相談できる相手は誰ですか？ (回答数 59)



まとめ 50%以上がパートナーに相談、親・友人を含めれば全体の80%以上を占める。一方で、先生方への相談は10%ほどにとどまっている。現状の不安は身近に相談していることがわかる。

コメント 家庭のことは家庭の中で…と考える傾向が根強いようです。子育ては親の役目という認識からなのか、緊急事態である今も、家庭の中にある困難は外には相談されることなく、家庭の中で解決しようと努力をしている様子が推察できます。

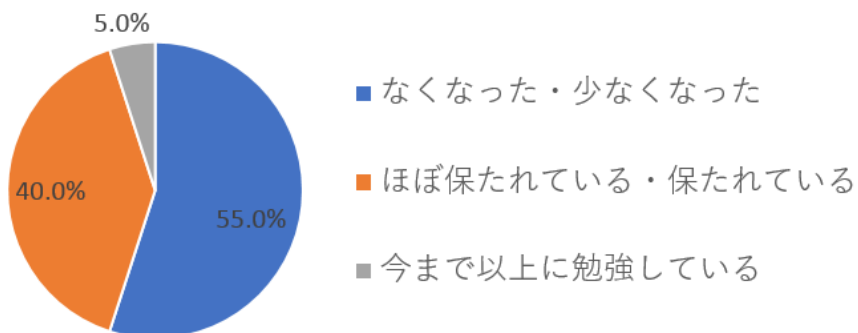
4. 子育ての情報をどこから得ることが多いですか？ (複数回答可) (回答数 61)



まとめ 情報収集はインターネットを通して行われている。一方で、知人友人等人、特定の人を介して情報収集をしている回答も目立つ。一般的な情報と身近な人からの情報、両者に対するニーズが伺える。

コメント 子育てには固有性があり、一般論としての情報と、我が子に関する特定の情報、両者が必要です。非常事態である現在においては、特に学校や地域に応じて対応が異なります。全体の方向性を見つつ、うちの子の学校はどうなっていくのか、子どもを育てる保護者においては、二重の情報収集をしている現状が読み取れます。

5. お子さんの勉強に対する姿勢はこの1カ月間でどのように変化しましたか？ (回答数 60)



まとめ 半数以上が「なくなった・少なくなった」に回答。自宅学習にて、子どもが勉強に向かうには困難があることが示された。一方で、概ね保たれている・時間があるので更に勉強ができるという回答もあり、工夫次第で可能性が広がることが推察できる。

コメント 半数以上が減少したと回答している中、概ね保たれているとの回答にも40%の報告があります。先の結果にあるように、子どもの学習に対して大きな不安は感じつつも、なんとか今は努力により保っている状況が推察できます。3月の休校期間が、学年末という1年のまとめの時期でもあったことも、勉強への姿勢が保たれる要因となっているかもしれません。新年度となり、新しいことを学ぶ時期になった際には、学年末とは少し異なる様相がみられるかもしれません。

6. この1カ月間でお子さんの様子には何か変化がありましたか？ (回答数 54)

分類	マイナスの変化		プラスの変化
	子どものストレス	生活面の乱れ	
事例(回答)数	14	28	12

◆ **マイナスの変化**

✓ **子どもの抱えるストレス**

- ・子どもたちが怒りやすくなった、年長の子がおねしょをする
- ・4月に入り兄弟ともにチック症状が復活した / ・反抗期も重なり、親子共々とてもきつい状況
- ・疲れやすい／ぼんやりすることが多くなり、集中力がかけるときがある
- ・退屈そうな様子で時々イライラしている / ・感情の起伏が激しくなっているように感じる／目が死んでいる

✓ 生活面の乱れ

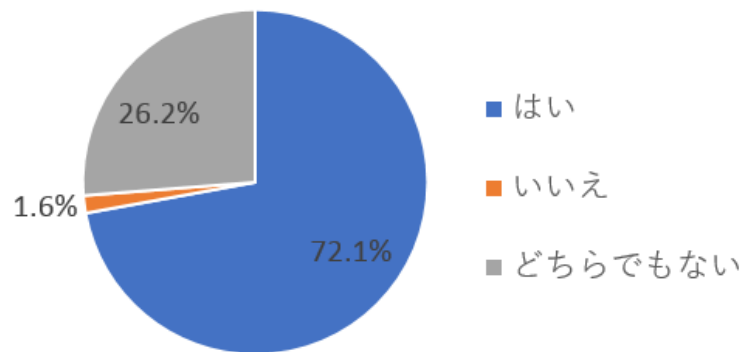
- ・起床時間のずれなど、不規則な生活になっている / ・睡眠が午前様になっている
- ・ゲームや YouTube の時間が多くなった / ・運動不足により食事の量が減った
- ・オンラインで友達とのやりとりが増えた / ・朝寝坊と夜ふかしのリズムになってしまった

◆ プラスの変化

- ・お手伝いが増えて出来る家事が増えた
- ・制限される生活でストレスは感じているが、家族で過ごせる時間が増えたことは喜んでいる
- ・日頃、子どもは学校や習い事で多忙なので、ゆっくり家で過ごすことができ、できなかったこと、やりたかったことが存分にできるためか、心身共に落ちついている。…(中略)…自分で遊びややりたいことをあれこれ考えて過ごしており、子どもの前向きな新たな一面を知ることができた。また、母子の会話も、時間に追われることなく、ゆっくりできるので、会話が広がり、良好な母子関係が作られ、信頼関係を構築する良い機会になっているような気がしている。

コメント 毎日自宅に…、この生活からは、大人ばかりではなく、子どももストレスを抱え身体反応にまで表れている状況が報告されています。また、決まった時間の登校等がなくなった分、生活習慣を維持することに困難があるようです。一方で、時間があることを逆手にとって、うまく自宅時間を利用している回答も見られました。変えられない現状に対して、どのような見方をするかにより、精神的負担感が変化する可能性が推察できます。

7. オンライン授業の導入を望んでいますか？ (回答数 61)



8. オンライン授業が導入された際の懸念点は何ですか？ (回答数 53)

分類	利用環境面	授業内容面	モチベーション維持	身体への影響面	技術面
事例(回答)数	10	17	11	10	5

◆利用環境面

- ・小学生の授業中に、下の二人を静かにさせておくのが大変。末っ子(1歳)がタブレットやパソコンを触りにくる。制止すると泣く。泣くと授業が聞こえない。3年生も母親が側にいないと、パソコンの詳しい操作はわからない。しかし、その間、下の二人の世話は？ 静かな環境で、受講してくださいと言われるが、難しい。
- ・自分の部屋で学習するため、きちんと学習しているか確認しづらい
- ・子どもの数が多いと同時にオンライン授業が受けづらい

◆授業内容面

- ・インプットに偏るのではないか。アウトプットする機会が減るのではないか
- ・子どもたちの発表や色々な意見を拾うことができるのか。画面を見るだけにならないか。でも学習が遅れるよりはいい / ・受け身の授業になり積極性が下がりそう
- ・ついていけているかという様子を、先生が把握できるかが懸念される
- ・学年の低い子どもに対して、どこまでの効果が期待できるか / ・分からない箇所がそのままになりそう

◆モチベーション維持

- ・本人のやる気が全てなので、個人差がとても出るし、親には何をしているのか分からないので、やらない人は全くやらないと思う
- ・子どもの集中力を持続させる授業ができるかどうか、先生の指導力が心配。学校の授業をそのままオンラインで一方的にやっても子どもはすぐ飽きる。参加型にして意見交換しながら進めるなど工夫が必要
- ・いつでもみられる授業だと本人のやる気任せになるので、レッスン方式でない不安
- ・登校とは違うストレスがありそう

◆身体への影響面

- ・目が悪くなる。パソコン、スマホ依存／五感を活かした体験が少なくなってしまうのではないかという点

◆技術面

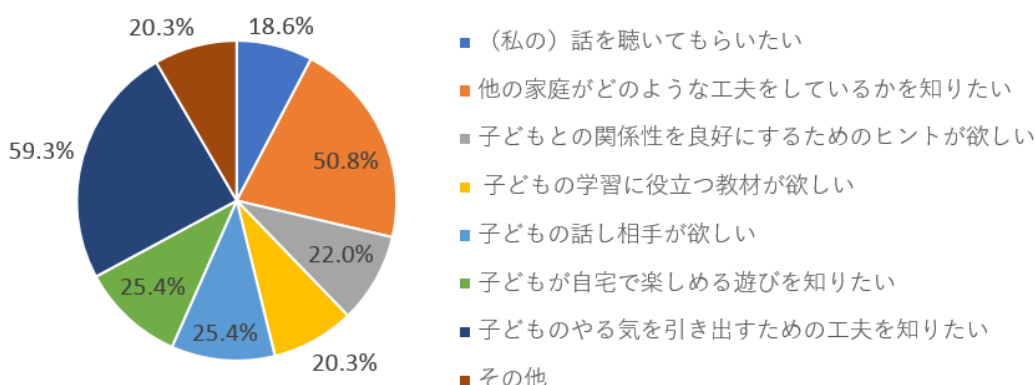
- ・通信が上手く接続されず、それに時間を割く／セキュリティの問題、対策

コメント オンライン授業の導入には大きな期待が寄せられています。一方で、親も在宅で仕事、複数の子どもが同時にオンライン授業を受ける現実には多様な課題があるようです。これらの課題は、子どもの年齢や人数に応じて、家庭環境に応じて異なります。こうすればオンライン授業は受けやすくなるという答えはないにせよ、対象となる家庭にある課題に着目し、より効果的な方法を検討していく必要があると思われます。また、オンライン授業の内容構築と平行し、双方向のやり取り、学んだことのアウトプットの機会を設けるための工夫も重要でしょう。子どもの理解を確認するオンライン授業が広がっていくことを期待します。

9. 子どもの勉強の相手をする際の課題を教えてください (回答数 56)

- ・分からないことを教えたり伝えたりするときの方法。かなりの割合で親子喧嘩になる / ・言うことをきかない
- ・どのような教材をどのように使ったらよいかのわからない / ・苦手教科の勉強が手薄になっている
- ・理解度に応じたフォローが不足している / ・教育の専門家ではないので経験則のみで教える限界がある
- ・学校の課題や通信教育などが終わってしまい何の勉強をさせていいか迷う

10. いま、どのようなサポートが必要ですか？ (回答数 59)



まとめ 他の家庭の取り組みを知りたい、子どものやる気を引き出すための工夫を知りたいに多くが回答。子どもの学習への不安が大きいことが示されている。

コメント 広く社会に発信された意見をインターネットで得ることは可能でも、我が子の学習に関する、信頼できる人からの意見、同じような環境にいる他の家庭の取り組みは見えづらい様子です。同じ課題を抱えた者同士、同じ未来に向かうもの同士がつながれる場の構築が危急の課題といえるでしょう。また、子どものモチベーション維持は、休校期間が長期化すれば、更に難しくなっていくことが予想されます。教科内容のみならず、メンタル面でのサポートも要されていることが分かります。

11. その他のホンネ (回答数 40)

- ・教育の機会をしっかりと確保してほしい / ・検索と称し、ネットサーフィンにつながりやすい
- ・先行きがどのようになるのか不明なので、定期的な情報公開が欲しい / ・マスコミは教育に関心がなさ過ぎる
- ・海外の学校や近隣の私立学校はオンライン授業などがあり、通っている公立小中はもちろんそのような授業体制もなく、日本の公立小中の遅れを実感した / ・コロナ、反抗期が重なり、日々模索中
- ・子どもをオンラインでもいいから先生や友達と交流させてあげたい。孤立して不安や寂しさを感じている状況をなんとかしてあげたいが、親も仕事があるので限界がある。
- ・子どもの学習面で、オンライン授業は今後更に活用していくことになると思う。懸念はあるが受け入れていきたい。ただ自宅待機、休校を受け入れるだけでなく、この現状で出来ること、形を変えて、学習を継続していくことに努力していきたい。 / ・接する人が特定の大人ばかりになってしまっている

12. 総括・私見

以上、子どもの自宅学習をサポートする保護者を対象としたアンケート調査の結果から、自宅待機の背景にある、子どもを取り巻くリアルな状況が見えてきました。

休校期間 1 カ月程度の現段階での保護者の不安感は、子どもの勉強に関すること、生活習慣に関することに特化していました。学校という場は、子どもが勉強をする場であり、子どもの生活習慣を整える場でもあるということでしょう。また、学校に行けないストレスが、子どもの身体反応にまで表れているという回答も目立ちました。唐突な臨時休校により学校という場が突然なくなってしまった現実が、子どもに与える影響は想像以上に大きいものだとわかります。

そして、学校が担っていた役割は、現在、子どもを見守る保護者に委ねられています。自主的な学習習慣がまだ身につけていない子どもの場合は、自宅学習に親の関与が不可欠です。在宅勤務をしながらも、子どもの勉強を見て、生活習慣を整え、外に行けないことによるストレスへの対応をする等、保護者の負担は急激に大きくなってしまいました。子どもの自宅学習支援とともに、自宅学習を支える保護者のケアも重要といえるでしょう。

一方で、「時間ができたため今まで忙しくてできなかったことを行うことができる」、「生活の基盤である家事を親子で行うことで子どもに新たな経験をさせることができる」等、自宅待機という非常事態をポジティブに捉える回答もありました。日々の生活の中にも、多様な学習チャンスがあるようです。サポートをする大人が自宅学習をどう捉えるか、勉強という枠組みをどう設定するか次第で、子どもの学習機会は広げることができるかもしれません。保護者に対するメンタルのケアがやはり必要と推測できます。

また、オンライン授業に関しては、大きな期待が寄せられるとともに、自宅で受講するにあたっては、多様な課題があることが示されました。今後もオンライン授業は急速に展開されていくことが予想されますが、受講する子どもの学習空間の課題、援助を行う保護者が抱える課題、一人で学習することから生まれる課題等に着目し、新しい時代の学びの創造に向かっていただければと切に願っています。

今回は、マザーカレッジが配信している子育てメールマガジンの読者からの回答が主でありました。ご協力くださった方は、日頃から子育てについて学ぶ習慣がある方が主であったことを最後に加えておきます。

執筆：江藤真規

本資料に関してのご質問・ご意見などがございましたら、ご連絡をお願いいたします。

株式会社 サイトコーディネーション
TEL: 03-5261-0771. FAX: 03-5261-0772
info@saita-coordination.com

(担当: 大河)